

報 告

神奈川県内から 67 年ぶりに記録されたカワスナガニ  
(ムツハアリアケガニ科)

乾 直人・丸山智朗・花井元哉

Naoto Inui, Tomoaki Maruyama and Motoya Hanai: Rediscovery of the camptandriid crab *Deiratonotus japonicus* from Kanagawa Prefecture, Japan after 67 years

**Abstract:** The camptandriid crab *Deiratonotus japonicus*, endemic to Japan, was rediscovered in the Morito-gawa River in October 2025 after 67 years without records in Kanagawa Prefecture. Seven specimens, including one ovigerous female, were collected and identified based on morphological characteristics. The finding suggests that a local population has re-established, possibly through larval recruitment from adjacent areas.

緒 言

カワスナガニ *Deiratonotus japonicus* (Sakai, 1934) は河川の汽水域上端に生息する日本固有種のカニ類である(和田, 2012)。本種は房総半島以南から沖縄島までの各地にかけて生息が確認されているものの、生息地が隔離的であり、河川開発や水質汚濁の影響を受ける可能性が高いことから環境省レッドリストでは準絶滅危惧 (NT) と判定されている(環境省, 2015; 環境省, online)。

本種は神奈川県内では田越川および森戸川から記録されている(蒲生, 1965; 酒井, 1976)。しかし、確認できる最後の記録は 1958 年に逗子から採集された標本であり(神奈川県立生命の星・地球博物館, online)、その後の 1975 年、1987 年の採集調査において同 2 河川を含む神奈川県内では本種の生息は確認されず(蒲生・小酒井, 1991)、三浦半島葉山ではほぼ絶滅状態であるとされている(酒井, 1965; 環境省, 2015)。近年においても、神奈川県内の河川河口域ではカニ類を対象とした採集調査が行われているが、本種は確認されていない(乾ほか, 2021; 鈴木ほか, 2023; 伊藤・崎山, 2024 など)。今回、過去に生息が確認されていた三浦半島森戸川から本種が採集されたため、標本記録の調査と合わせ、採集個体を神奈川県からの 67 年ぶりの記録として報告する。

材料と方法

採集調査は 2025 年 10 月 13 日に神奈川県三浦半島の森戸川で行った。調査は著者ら 3 名で行い、手網(間口 33–35 cm、網目 1–3 mm)を用いて、または徒手で転石下からカニ類を採集した。採集されたカワスナガニ 10 個体程度のうち 7 個体を持ち帰り、氷殺後無水エタノールで

固定し、神奈川県立生命の星・地球博物館の甲殻類標本資料 (KPM-NH) として登録した。また、同博物館に収蔵されているカワスナガニの標本資料を調査し、比較検討した。なお、同博物館における無脊椎動物の標本番号は、電子台帳上はゼロが付加された 7 桁の数字が使われているが、ここでは標本番号として本質的な有効数字で表した。

検討標本については、ノギスを用いて 10 分の 1 mm の精度で甲長 (CL) と甲幅 (CW) を計測し、主に Kawane *et al.* (2005) や締次(2015)を参考にして、種の同定を行った。

結果と考察

ムツハアリアケガニ科  
Family Camptandriidae

カワスナガニ  
*Deiratonotus japonicus* (Sakai, 1934)

(図 1)

**検討標本:** KPM-NH 5344–5350、雄 4 個体および雌 3 個体、5.0–7.6 mm CL、5.9–9.2 mm CW、森戸川下流域、神奈川県三浦郡葉山町堀内、2025 年 10 月 13 日、手網、乾 直人・丸山智朗・花井元哉採集; KPM-NH 1078–1079、雌 2 個体、9.2–9.3 mm CL、11.2–11.4 mm CW、森戸川、葉山、採集年月日不明、鈴木 博採集; KPM-NH 162130、雄、7.1 mm CL、8.7 mm CW、逗子、1958 年、酒井 恒採集; KPM-NH 107898、静岡県下田市鍋田、1933 年、酒井 恒採集。

採集された個体は、甲が横長の六角形に近く、表面にわずかな隆起が認められるが稜線はないこと、前側

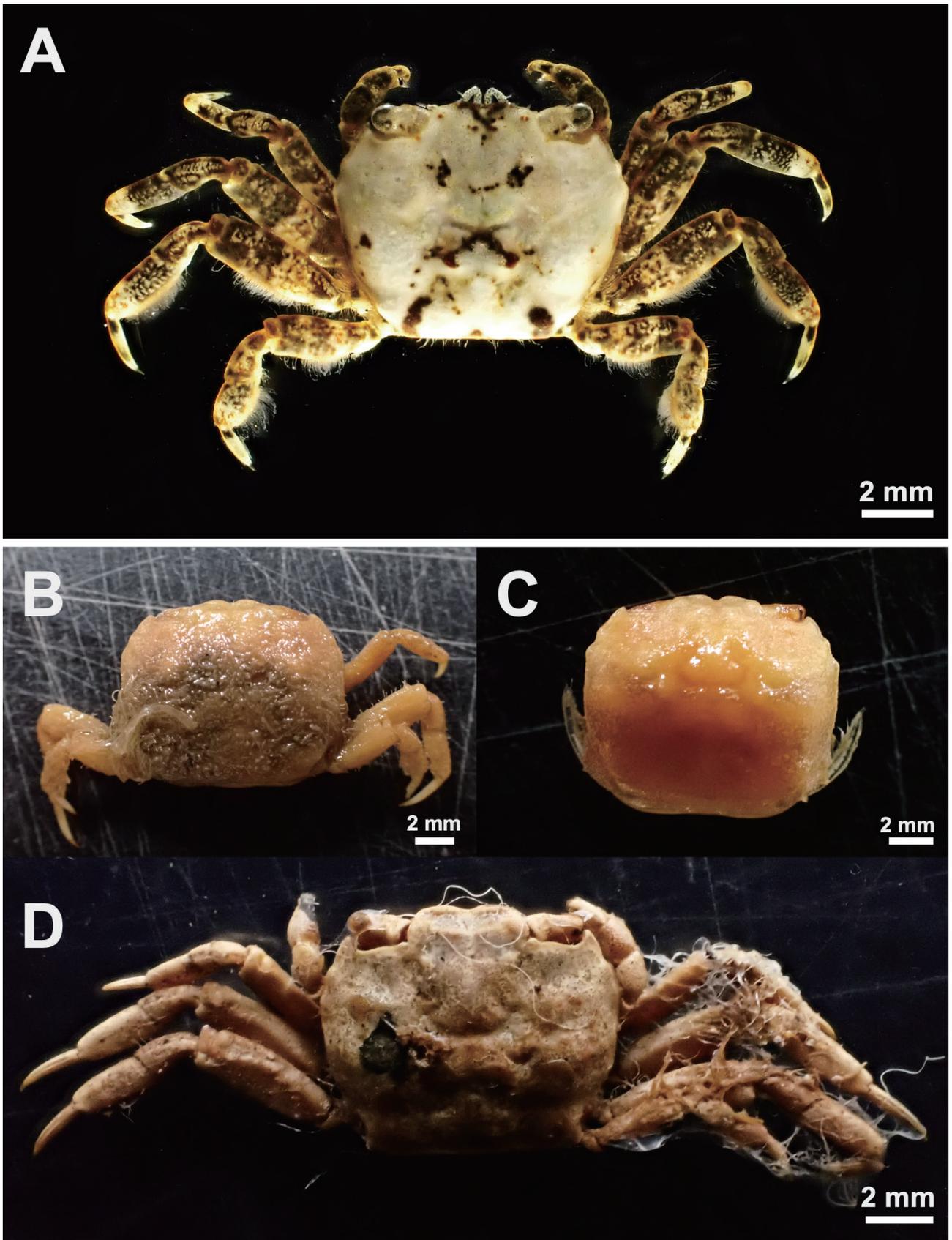


図1. 神奈川県内から記録されたカワスナガニ *Deiratonotus japonicus* の標本写真. A: KPM-NH 5344, 雄, 7.6 mm CL, 9.2 mm CW, 森戸川下流域, 神奈川県三浦郡葉山町堀内, 2025年10月13日, 手網, 乾直人・丸山智朗・花井元哉採集, 氷殺後に撮影; B: KPM-NH 1078, 雌, 9.3 mm CL, 11.4 mm CW, 森戸川, 葉山, 採集年月日不明, 鈴木博採集; C: KPM-NH 1079, 雌, 9.2 mm CL, 11.2 mm CW, 森戸川, 葉山, 採集年月日不明, 鈴木博採集; D: KPM-NH 162130, 雄, 7.1 mm CL, 8.7 mm CW, 逗子, 1958年, 酒井恒採集.

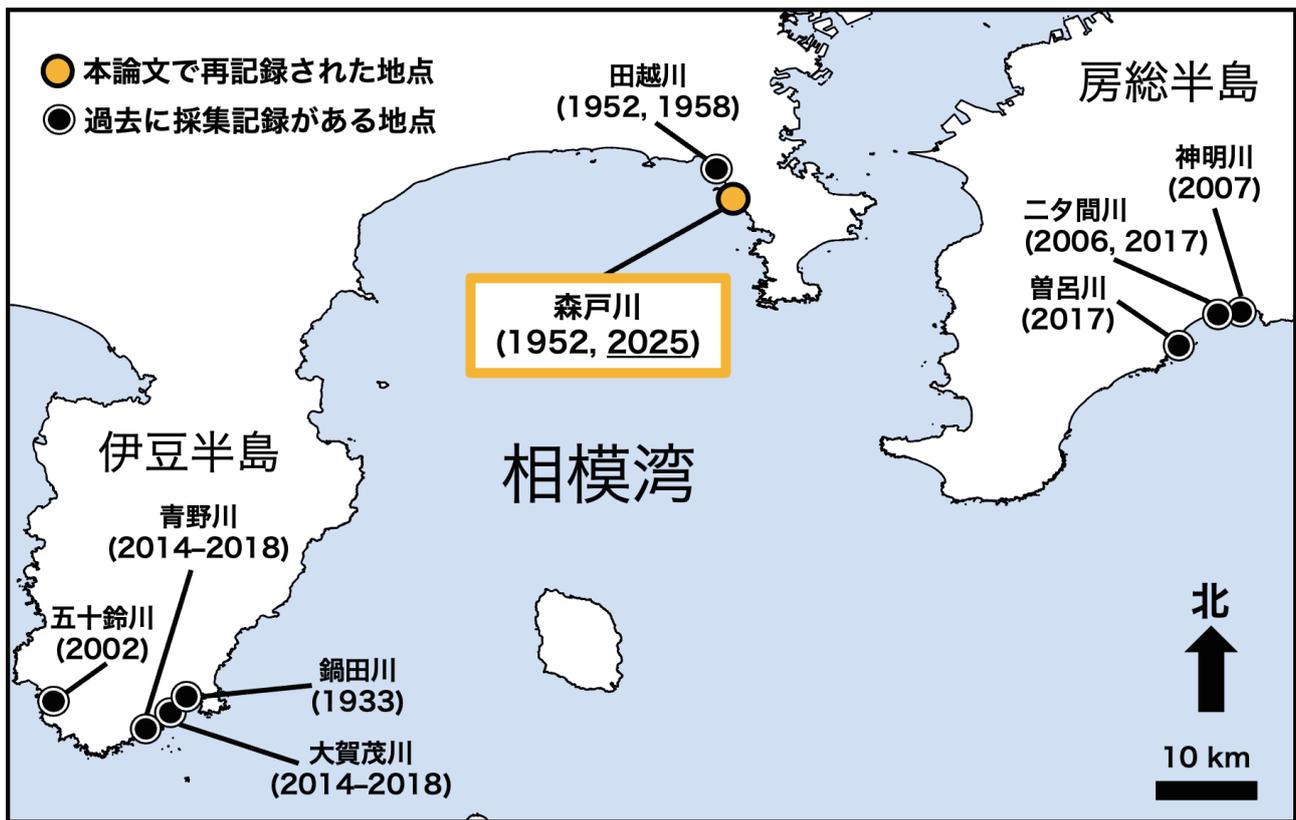


図2. 神奈川県とその周辺地域におけるカワスナガニの記録. 地点名に付した数字は記録の根拠となる文献で本種が採集された年を示す. 各地点の記録については以下の文献を参照した; 五十鈴川: Kawane et al. (2005); 青野川および大賀茂川: 柚原ほか (2023); 鍋田川: Sakai (1934); 田越川および森戸川: 蒲生 (1965), 本研究; 曾呂川: 乾ほか (2019); ニタ間川: 朝倉・森上 (2007), 乾ほか (2019); 神明川: 伊藤ほか (2008). 地図は国土交通省国土政策局「国土数値情報 (海岸線データ)」<http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/> をもとに著者が編集・加工した.

縁に眼窩外歯を除き丸みを帯びた2歯をもつこと、歩脚長節の後縁に軟毛が密生すること、雄の腹節は一部癒合し、第1腹肢の先端が強く湾曲することが Kawane et al. (2005) や 締次 (2015) の本種の記述に概ね一致した。これらの個体は森戸川落雁橋付近の感潮域上部の転石下から採集され、同所的にタイワンヒライソモドキ *Ptychognathus ishii* Sakai, 1939 が見られた。

また、神奈川県立生命の星・地球博物館には、過去に神奈川県から採集されたカワスナガニとして3個体の標本 (図1 B-D; KPM-NH 1078-1079, KPM-NH 162130) が収蔵されていた。これらについても甲の特徴は Kawane et al. (2005) や 締次 (2015) の記述に概ね一致した。森戸川産の標本 (KPM-NH 1078-1079) については、1950年代以降のより近年に採集されている可能性があるが、同封されていたラベルや標本データベース (神奈川県立生命の星・地球博物館, online) から採集年月日を確認できなかったため今回は採集記録から除外した。

さらに、本種のタイプシリーズの一部とされている (Kawane et al., 2005; 神奈川県立生命の星・地球博物館, online) 静岡県産の標本 (KPM-NH 107898) も確認したが、標本が崩壊しており、個体数、雌雄や詳細な形態については確認できなかった。この標本については、1個体分の計測値として甲長 6.5 mm、甲幅 8.0 mm という記録が

標本に同封されていたほか、Kawane et al. (2005) では雄3個体とされている。本種の記載論文である Sakai (1934) では鹿兒島をタイプ産地としており、下田産の標本は追加産地として雄2個体および雌10個体を検証しているため、この一部が KPM-NH 107898 として登録されている可能性がある。

本種は太平洋側は千葉県、日本海側は島根県を北限として沖縄島まで分布し (和田, 2012; 桑原・林, 2014)、神奈川県内では田越川、森戸川から記録されていた (蒲生, 1965; 酒井, 1976)。上述の森戸川産の標本 (KPM-NH 1078-1079) を除けば、神奈川県からの最後の記録は1958年に逗子から採集された標本 (KPM-NH 162130) であり、採集個体は県内からの67年ぶりの記録となる (図2)。森戸川では1952年の調査以降発見されていなかったことから (蒲生, 1965; 蒲生・小酒井, 1991; 乾ほか, 2019)、本種の森戸川の個体群は一度絶滅し、近年三浦半島に隣接する伊豆半島や房総半島の生息地 (図2) から幼生が加入して出現した可能性が考えられる。採集された標本のうち雌1個体は抱卵しており (KPM-NH 5345)、様々なサイズの個体が採集されたことから、現在は森戸川に定着している可能性がある。

なお、本種は生息地間で遺伝的変異が大きく、個々の個体群を保全する意義が大きいとされている (Kawane et

al., 2005; 和田, 2012)。三浦半島の個体群は先行研究では検討されていない (Kawane *et al.*, 2005) ため、過去に採集された三浦半島の個体 (KPM-NH 1078–1079, KPM-NH 162130) が他地域の個体群と遺伝的に区別されるのかどうか、また今回採集された個体 (KPM-NH 5344–5350) が他地域の個体群に由来するのかなど、遺伝学的な解析から保全単位の検討を行うことが望まれる。

## 謝 辞

本稿をまとめるにあたり、標本の登録や、収蔵標本の観察についてご協力いただいた神奈川県立生命の星・地球博物館の佐藤武宏学芸員に厚くお礼申し上げる。

## 引用文献

- 朝倉 彰・森上 需, 2007. 千葉県河口域のカニ類. 海洋と生物, **29**(4): 355–365.
- 蒲生重男, 1965. 河口産のカニ類の種類と分布について. 甲殻類の研究, (2): 91–101.
- 蒲生重男・小酒井英一, 1991. 相模湾北部と東京湾西部の河口域に生息するカニ類の種類と生態について. 横浜国立大学教育学部付属理科教育実習施設研究報告, (7): 25–38.
- 乾 直人・山川宇宙・丸山智朗・加藤柊也・酒井 卓・佐藤武宏, 2019. 相模湾およびその周辺地域の河川から採集された注目すべきカニ類 11 種. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (48): 43–54.
- 乾 直人・山川宇宙・碧木健人・是枝伶旺, 2021. 2019 年 9 月以降に相模湾およびその周辺地域から採集された注目すべきカニ類 7 種. 神奈川自然誌資料, (42): 135–141.
- 伊藤哲也・宮崎 靖・藤原 直, 2008. 小湊研修報告 – 神明川の底生生物調査 –. 日本海洋生物研究所年報, **2008**: 5–14.
- 伊藤寿茂・崎山直夫, 2024. 相模川河口域における希少種を含むカニ類 8 種の注目すべき追加記録. 水生動物: AA2024-14.
- 環境省編, 2015. レッドデータブック 2014 7 その他無脊椎動物 (クモ形類・甲殻類等) – 日本の絶滅のおそれのある野生生

- 物 – 82pp. 株式会社ぎょうせい, 東京.
- 環境省, online. 環境省レッドリスト 2020 の公表について. <https://www.env.go.jp/press/107905.html> (accessed on 2025-October-25).
- 神奈川県立生命の星・地球博物館, online. 神奈川県立生命の星・地球博物館収蔵資料データベース. <https://nh.kanagawa-museum.jp/kpmnh-collections/> (accessed on 2025-October-25).
- Kawane M., K. Wada, J. Kitaura, & K. Watanabe, 2005. Taxonomic re-examination of the two camptandriid crab species *Deiratonotus japonicus* (Sakai, 1934) and *D. tondensis* Sakai, 1983, and genetic differentiation among their local populations. *Journal of Natural History*, **39**: 3903–3918.
- 桑原友春・林 成多, 2014. 島根県におけるカワスナガニの記録. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, **13**: 1–5.
- Sakai, T. 1934. Brachyura from the coast of Kyusyu, Japan. *Science Reports of the Tokyo Bunrika Daigaku. Section B*, **1**(25): 281–330.
- 酒井 恒, 1965. 相模湾産蟹類. 206 pp. 生物学御研究所, 東京.
- 酒井 恒, 1976. 日本産蟹類. 773 pp. 講談社, 東京.
- 締次美穂, 2014. 三重県におけるカワスナガニの記録. 南紀生物, **56**(1): 53–55.
- 鈴木孝男・多留聖典・海上智央・横岡博之・横山耕作・木村妙子・金谷 弦, 2023. 三浦半島江奈湾の底生動物相と希少種の出現状況 – 東京湾から紀伊半島間にある 9 ケ所の干潟との比較. 日本ベントス学会誌, **78**(1): 50–60.
- 和田恵次, 2012. カワスナガニ. 日本ベントス学会編, 干潟の絶滅危惧動物図鑑 – 海岸ベントスのレッドデータブック, pp. 208. 東海大学出版会, 秦野.
- 柚原 剛・横岡博之・多留聖典・海上智央・田中正敦・横山耕作・金谷 弦, 2023. 伊豆半島南端部の河口域カニ類相の特徴. 日本ベントス学会誌, **78**: 73–83.

乾 直人: 国立遺伝学研究所; 丸山智朗: トレンドデザイン株式会社; 花井元哉: 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科

(受領 2025 年 10 月 30 日; 受理 2026 年 1 月 13 日)